

『perAF 2nd. AVR 術後のAT』

札幌白石記念病院 宮本 憲次郎

今回、ultra high resolution mapping system (RHYTHMIA) を用いて心房頻拍を治療する。3D mapping system は複数存在し各種でそれぞれ mapping catheter、Hard ware, soft ware に特徴がある。RHYTHMIA system の mapping cath, は Orion と言われる basket 型の size 可変型の 64 極(56 bipolar)である。一般に Mapping カテーテルは電極サイズが小さく、また電極間隔である事が正確な near field の電位記録が可能となり、print 電極である orion は最も有利な設計である。また Hard ware は周期、呼吸補正のほか電位取得を2つの reference で正確な目的電位取得が可能であり、その電位が周囲の電氣的興奮伝搬に最も適した intelligence annotation にて解析される。RHYTHMIA の最大の魅力の一つとして LUMIPOINT software がある fractioned electrogram, duration, double potential などの異常電位、また超微小電位の興奮伝搬を表現できる。本症例は発作性の心房頻拍であり入室時頻拍であれば頻拍 mapping から、また洞調律であれば洞結節を含め異常電位を記録後に頻拍を誘発し異常電位との関係が明らかにできればと考える。局所電位に注目を置いた不整脈治療が表現できればと考えている。